

# 特別賞『中国共産党「天皇工作」秘録』

城山英巳氏

文春新書

## 事実を追って淡々とつづる



「天皇を訪問させた」といふ。鄧小平が毛沢東の時代に、天安門事件で中国共産党の「天皇工作」秘録の内幕を暴露した。中国共産党の「天皇工作」のディテールを追いながら、共産党の対日観、中国指導部内の権力闘争、日中指導者間の確執などについて、日中交渉のありようをフロントラインで観察してきた著者が、知られざる挿話を含めて淡々と綴った著作である。

中国共産党はすでに毛沢東の時代から、日本における天皇の深遠な存在、ならびに日中関係における天皇の傑出して大きな利用価値を知悉しており、日中関係史は「天皇工作」の中に最も鮮明な形で投影される、というのが著者の見立てである。読了してみれば、著者のこの見立てがまこと的確なものであったことが知られる。

中国共産党はすでに毛沢東の時代から、日本における天皇の深遠な存在、ならびに日中関係における天皇の傑出して大きな利用価値を知悉しており、日中関係史は「天皇工作」の中に最も鮮明な形で投影される、というのが著者の見立てである。読了してみれば、著者のこの見立てがまこと的確なものであったことが知られる。

激しいものへと転じていった。著者はその経緯をも描く。「天皇訪中」も歴史の「こま」になってしまったということか。「天皇訪中」についての著者の個人的評価は避け、事実のみを精細に追うことを主眼としている。ジャーナリストとしての本領が発揮された著作であるといえよう。

【評・渡辺利夫】

2010年11月14日  
毎日新聞より